

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	水田農業推進事業	会計	一般会計	事業No.	386	施策順No.	11-011
		事業種別	政策・その他	予算科目	6-1-4-30-1		
政策	1 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり			課等名	農業課		
施策	11 事業者自らが実施するパワーアップ活動			事業期間	開始	S46	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	水田を所有・耕作する農家						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		水稲作付け面積(ha) ※年度別作付け面積(報告数値)	826	827	827	826	826	
		水田を所有・耕作する農家数(人) ※生産調整の目標を配分した人数		6409	6457	6488	6497	
意図	・米の需要に応じた米生産を行ってもらう ・水田を利用し園芸作物を栽培してもらう ・売れる米づくりや公共施設給食における利用等を目的に特別栽培米(こだわり米)の生産を行ってもらう							
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	米生産量目標達成率(%)…100%以下で達成、100%以上は過剰作付	94.1	99	98.9	100	99.2	100	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	H22年度から米政策の大きな転換が図られた。しかし、国民の米消費量は減少傾向であり、生産が供給過剰であるため、国の生産目標数値による調整が行われている。飯田市でも、生産調整の目標を達成し戸別所得保障制度に参加する生産者が大多数であるが、米価が上がらないことが課題である。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	平成21年度は、米価の安定を目的とした生産調整を行うとともに、「南信州地域水田農業ビジョン」に基づき水田を利用した園芸作物と、特別栽培米(こだわり米)の生産振興を中心とした産地づくり対策事業を実施した。また、地域産米の消費拡大や、水稲生産作業の軽減方法の普及・推進を図った。 平成22年度は、国の制度変更に伴い、引き続き米価の安定を目的とした生産調整を行いながら、生産調整実施者に対しては、そのメリット対策である所得補償モデル事業への加入支援を行うと共に、水田のフル活用を目指した水田利活用自給率向上事業も推進し、園芸作物ばかりでなく、大豆、小麦、新規需要米といった国の戦略作物の普及・推進を図っていく。 ※特別栽培米(こだわり米):南信州地域水田農業推進協議会が定めた生産基準(減農薬、減化学肥料)に沿って契約栽培された米		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 水田不作付地における作付改善計画書の確認 2 特別栽培米(こだわり米)の生産奨励 JAによる作付け指導会の開催 3 水稲直播など省コスト化の推進 JAによる直播田植指導会 4 消費者に受け入れられる安全・安心で食味のよい米づくりを推進 5 水稲生産作業の受委託の推進 水稲作業受託者意見交換会 6 水田協議会への参画(南信州・飯田市) 1,483千円 生産調整事務補助 通年	1 改善計画書提出者数 2 作付指導会の開催数 3 田植指導会の開催数 5 意見交換会 6 飯田市水田農業推進協議会補助	1 371人 2 2回 3 2回 5 1回 6 1,483千円
23年度実施計画	1 水田不作付地における作付改善計画書の確認 作付改善計画書提出者のみ 2 特別栽培米(こだわり米)の生産奨励 JAによる作付け指導会の開催 3 水稲直播など省コスト化の推進 JAによる直播田植指導会 4 消費者に受け入れられる安全・安心で食味のよい米づくりを推進 下伊那農業改良普及センターによる新品種米の食味会を開催 5 水稲生産作業の受委託の推進 水稲作業受託者意見交換会 6 水田協議会への参画(南信州・飯田市) 800千円 生産調整事務補助 通年	1 作付改善計画書の確認 2 作付指導会の開催数 3 田植指導会の開催数 4 食味会の開催数 5 意見交換会 6 飯田市水田農業推進協議会補助	1 該当者のみ 2 2回 3 2回 4 1回 5 1回 6 800千円

3 事業コスト

事業費	特定財源	国庫支出金	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項	(県)水田農業経営確立推進指導事業補助金(10/10)
	一般財源	県支出金	1,483	1,483	800		
		起債					
		その他					
計(A)		1,483	1,483	800			
	正規職員所要時間		850				
	臨時職員等所要時間						
	人件費計(B)		3,040				
	トータルコスト A+B		4,523				

4 事業に対する市民や議会の意見

・新政策に転換されたことで、新たな産地づくり対策や品目横断的経営安定化対策が打ち出された。単純でわかりやすいものになることを期待したが、新制度も複雑で容易に理解し難い。
 ・生産調整については、販売農家と自家用米生産農家とでは取り組む意識に格差がある。
 ・高齢化や離農により米づくり農家が年々減少している状況下でこれ以上の減反は行うべきでない。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	事業者等が出荷額等を高める活動をする	施策の成果指標又はムトス指標	既存農業者の産出額(農業):億円
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	国の目標数量にしたがって地域全体で生産調整を行い、米価が安定させることで農業者の所得を向上させる取り組みであり、施策の目的達成に貢献している。また、水田転作により、アスパラやキュウリ、花卉等の産地化の取り組みも行われている。		
	後期に向けた課題	生産調整に取り組むと同時に、生産者が再生産価格を確保できるように地域の米を付加価値販売していく取り組みが求められている。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	毎年、各地区で説明会を実施し、生産調整への協力と米制度への参加を呼びかけてきた。		
	後期に向けた課題	近年は大幅な制度変更があり、また、年々複雑化してきており、生産者に制度を理解してもらうことが難しい。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	予算の使途は、長野県から交付される推進指導事業補助金を全額、飯田市水田農業推進協議会へ交付するものであり、各地区の推進員への謝礼に当てられる。一方で、国の制度変更による影響で職員が水田事務に費やす時間は増加しており、結果的にコストが増加している。		
	後期に向けた課題	農業政策は、長期的に安定したいものが望ましいが、近年は国の政局に左右されることが多く、事務量増によるコスト増加が想定される。また、戸別所得補償制度は市町村の果たす役割が多く、現地確認を含めて人件費が増えることが想定される。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	受益者負担の程度は適切である。また、国・県・市・農業団体(JA)がそれぞれの役割において事業を推進しており、関与の程度は適切であった。		
	後期に向けた課題	戸別所得補償モデル対策が始まった時点では、農政事務所(国)が直接関与する部分が多いとされていたが、運用段階では、市町村や農業団体への協力依頼が多くなり、本格実施に当たっては、市町村や農業団体がかなりの部分をこなすことになっており、市の負担が多くなることが想定される。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしてきましたか、又は、配慮してきましたか	4年間の振り返り	国・県・市・農業団体(JA)がそれぞれの役割において事業を推進しており、市は農業団体(JA)と密に連携を取りながら事業を推進している。		
	後期に向けた課題	本格的に戸別所得補償制度の運用が始まると、市と農業団体の役割が増大することが予想される。		
全体を通じて	4年間の振り返り	H22年度から戸別所得補償モデル対策が実施され、今までの米政策から大きな転換が図られた。しかし、国民の米消費量は減少傾向であり、生産が供給過剰であるため、国の主導による生産調整が続いている。飯田市でも、生産調整の目標を達成し大多数の生産者が戸別所得保障制度に参加しているが、米価の下落が止まらないというジレンマがある。		
	後期に向けた課題	国は戸別所得補償制度の導入により大きな政策転換を図った。制度が安定的に運用され、農業者の所得向上に繋がるように市も役割を果たして行く必要がある。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ある	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ある
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------